

コード	201050401
記入日	H23.5.31

# 事務事業途中評価表

課コード	113
課名	環境課
課長名	白石 英徳
担当者	鵜瀬 盛寿

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	し尿汲取り用配管等管理事業
----------	---------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 - 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	2	政策名称	安全、便利、快適な生活環境づくり	款コード	4
施策コード	201	施策名称	しまの自然とともに生きる環境づくり	項コード	2
基本事業コード	20105	基本事業名称	適正なし尿処理の推進	目コード	1
事務事業コード	2010504	事務事業名称	し尿汲取り用配管等管理事業	細目コード	831
関連計画	新上五島町一般廃棄物処理基本計画		法令・条例規則等	廃棄物処理法、新上五島町廃棄物の処理及び再生利用等に関する条例	

## 計画 ( PLAN )

※単年度繰返事業については、全体欄を\*\*\*\*\*とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1)	し尿汲取り用配管利用世帯	(対象指標1)	551世帯			
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	・し尿管修繕とし尿衛生ホース等での新設を行った。 <b>【事業内容】</b> →修繕 11箇所 →新設 2箇所	*****	*****	*****	修繕・新設箇所数+修繕・新設計画箇所数	*****
		①	修繕・新設箇所数	13箇所	100%	
		(達成率分析)	修繕・新設予定箇所を全て計画通り、対応できた。			
		*****	*****	*****	整備計画作成箇所数 / 整備計画作成予定箇所数	*****
		②	整備計画作成	2箇所	100%	平成22年度
		(達成率分析)	要望のあった2箇所について計画作成した。			
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		*****	*****	*****	利用可能日数+年間日数	*****
		①	利用可能日数	365日	100%	平成22年度
		(達成率分析)	適正な維持管理により、年間を通して利用できた。			
		*****	*****	*****	新設数 / 新設計画数	*****
		②	新設箇所数	2箇所	100%	平成22年度
		(達成率分析)	整備計画通り、し尿管及び衛生ホースを2箇所に新設した。			

## 実施 ( DO )

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		21年度以前	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 箇所	56	56	43	13	13				
	② 箇所	5	5	5	2	2				
成果指標	① 日	2,191	2,191	1,826	365	365				
	② 箇所	30	30	24	2	2				
総事業費 C (A+B)	千円	26,284	26,617	24,623	1,661	1,994				
直接事業費 A	千円	9,484	9,817	9,223	261	594				
人件費 B	千円	16,800	16,800	15,400	1,400	1,400				
内訳	従事職員数	人	2.4	2.4	2.2	0.2				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円								
	県補助金	千円								
	起債	千円								
	その他	千円								
一般財源	千円	26,284	26,617	24,623	1,661	1,994				

**評価**

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	一般廃棄物の適正な処理を行うために必要である。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	合併処理浄化槽の普及及び汲取り世帯の減少により、し尿中継管の利用は、減少する可能性があるが浄化槽汚泥の引き抜きなどの際にも利用するため、し尿管の整備や補修は必要である。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	住民の高齢化及び地形的な収集困難地域の世帯を対象としており、適切である。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	整備台帳及び計画の作成により、計画的に維持補修及び新設を行うこととしたため、成果があった。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	各地区に周知を徹底し、未整備地区を整備計画に入れ込むことにより、汲取り可能区域の拡大を図ることができると思われる。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	し尿の不法投棄が行われる可能性がある。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	できる ●できない	理由	類似事業はない。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由	整備台帳により、計画的かつ効率的に補修を行っており、成果があった。
	・人件費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由	し尿管の修繕・新設整備計画等の作成、発注現場管理等に要する最低限の人員であり、削減できない。
	・受益者負担は適正ですか。	はい ●いいえ	理由	現在は、し尿中継用配管に関して受益者負担はないが維持管理は利用者において行っている。今後、補修費や更新費用等が発生するようであれば受益者負担を含めた計画をしなければならぬ。

**改善**

改善策	1次評価	妥当性	適正なし尿処理のため必要であり、計画的な修繕・更新の実施と汲取り困難地区の把握が必要である。
		有効性	台帳による管理により計画的な修繕・更新を行うとともに汲取り困難地区解消のため効率的な整備計画を作成し、し尿管の設置を実施していく必要がある。
		効率性	要望に対しての修繕でなく、現在の配管設置状況を把握して計画的な整備計画を行い、適正なし尿の処理を推進する必要があると思われる。
	課題に向けた改善策	配管設置状況を把握して整備台帳にて経年劣化の恐れがある箇所を計画的に補修する。	
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり。
		有効性	施設の維持管理を適正に行い、更新・修繕等は計画的に行うこと。
効率性		指摘事項である受益者負担のあり方が示されていない。受益者負担を原則として検討を進めること。	

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
				このまま事業を継続				類似事業と整理統合
	●	●		事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。